

## 円安の進行について

為替変動には常にプラス・マイナスの両面があり、メリット・デメリットの見極めは難しい。円安メリットを享受している輸出関連企業の設備投資や雇用の改善を通じて、実体経済へ好影響が表れるのは、今しばらく時間を要するだろう。一方、円安による原材料・燃料の輸入価格の高騰によるコスト増への懸念が拡大してきている。1ドル105円から110円の円安進行もあり得るが、円安がこれ以上加速すると、アジアをはじめ世界経済にマイナスの影響を与えかねない。

いずれにせよ、為替の乱高下は、企業経営に与える影響が大きく、何よりも重要なことは相場の安定である。為替が安定することで、企業は将来の成長に向けた設備投資や事業構造の転換、あるいは、腰を据えた事業活動に専念することができる。

政府および日銀は、為替の安定に向けて、緊密に歩調を併せ、現実的で柔軟な金融政策のかじ取りをお願いしたい。

以 上

平成25年5月10日  
京都商工会議所  
会頭 立石 義雄